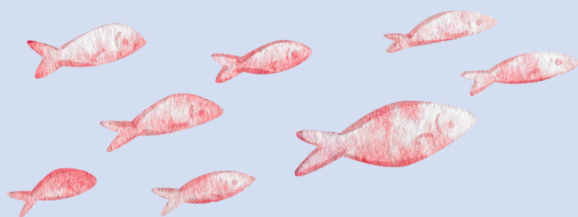


# 手足の不自由な こどもの絵画・写真展

期間 令和8年1月20日(火)～2月13日(金) (1/25休館日)  
会場 静岡県総合福祉会館シズウエル1階 (駿府町1-70)  
時間 9:00～17:00 (最終日は正午まで) 入場無料





私たち静岡県肢体不自由児協会は、昭和59年（1984年）より毎年、この「手足の不自由な子どもの絵画・写真展」を開催し、今年で41回目を迎えました。

### 活動の目的

本協会は、県内の子どもたちの作品展示を通じて、以下の二つを大切な目的として活動しています。

1. 県民の皆様への理解: 肢体不自由児への理解を広く求めていくこと。
2. 子どもたちの成長: 表現活動を通じて、子どもたちの心情を豊かに育むこと。

40年以上にわたり、子どもたちの「感性あふれる力強い作品」や「日常のきらめきを捉えた写真」を社会に届ける架け橋となってきました。

本冊子を通じて、作品の背後にある子どもたちの工夫や想いに触れていただければ幸いです。

### 展示内容：

作 品：静岡県内の肢体不自由のある子どもたちの絵画や写真。

作品数：114点 例年120点ほどの作品

表 彰：応募作品の中から、優秀賞が選ばれ、展示されます。子どもたちの感性あふれる力強い作品や、日常のきらめきを捉えた写真など、多彩な作品が集まります。



## 絵画の部

絵画の部門 審査講評  
審査員長 高橋智子  
静岡大学教育学部 准教授

○総評

今年は、県内11校から89作品の応募があり、昨年同様に活気あふれる審査会となりました。

作品を通して、色々なものやことを見つめ、工夫して描いているみなさんの姿が目につかれました。作品からは、みなさんが感動したこと、うれしかったこと、たのしかったこと、おどろいたこと、わくわくしたことなど、たくさんの気持ちや発見を感じることができます。

描くことは、楽しくてわくわくすることです。描くことで、今まで気づかなかった新しいことを発見したり、感じたりすることができます。描くことで、新しい世界や自分に出会うこともできます。

描く中でわたしたちは、自由に自分の心の動きや感覚を楽しみます。わたしやあなたの感じ方や描き方にまちがいはありません。絵のかたちは、人の数だけ存在します。これからも、描くことを楽しんでください。そして、作品をかこんで、みんなで話をしてください。作品は、わたしとあなたを豊かにつないでくれるきっかけにもなります。

## 静岡県肢体不自由児協会理事長賞



### どうぶつえんのとら

校外学習で行った日本平動物園のトラをイメージして  
ほんもののトラに近づくよう、作りました。  
もっと茶色・黄色と伝えて指を動かして作りました。

静岡県立中央特別支援学校  
小学部 2年 齋藤 陸

【講評】堂々としたトラが、がめんのまんなかにちからづよく描かれていますね。目をはなすことができなくなるような、みりよくを感じます。まるで今にもうごき出しそうなトラのはくりよくに、おどろかされました。ゆびを大きくうごかしたり、こまかくうごかしたりしているので、うごきやせいめいりよくを感じることができます。トラをよくみて、形や色をていねいに描いたりぬったりしているのがつたわってきます。

## 静岡県教育委員会教育長賞



### 真夜中の格闘

ローラーに絵の具をつけて画用紙に色をつけました。

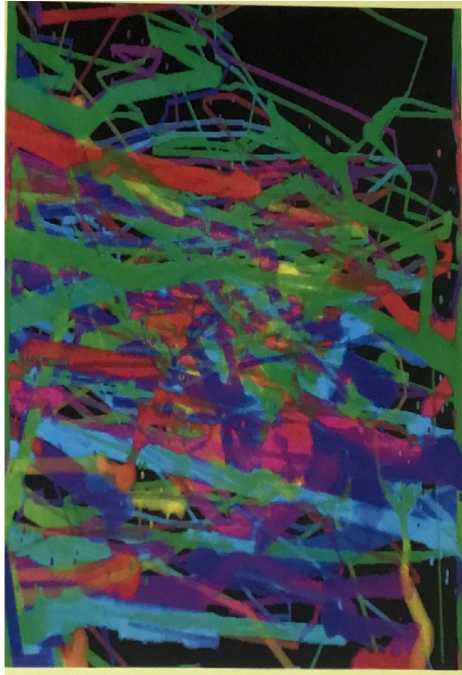
どこに何を書きたいか先生に伝えて書きました。

できた作品の雰囲気からタイトルも自分で決めました。

静岡県立中央特別支援学校  
小学部 5年 小林 一晴

【講評】ローラーをつかって、先生と一緒にダイナミックに色をぬって楽しんでいる様子が伝わってきます。完成した作品をみて、いろいろなイメージを広げるのはとてもわくわくしますね。赤、黄、青の3つの色と、それを使ってできる紫や緑がいろんな気持ちをあらわしているようにもみえてきます。薄暗い中、色が重なり、まざり、格闘して、どんな色（気持ち）が生まれるのかな。

## 静岡県特別支援学校校長会会長賞



### コバルトヤドクガエル



コンピューターアート（視線入力装置）で描きました。

水族館へ行く際の事前学習で、魚や生き物の写真の中からコバルトヤドクガエルを気に入りました。視線を上下左右に動かして画面いっぱいにて描くことができました。

静岡県立南部特別支援学校  
中学部 3年 杉山 るり

【講評】 描く方法には手をつかうだけではなく、様々な方法があります。自分の力を発揮して、視線で描いて完成させた作品をととても素敵だと感じました。

活発な目の動きから、カエルの美しさに感動している作者の様子や驚きが伝わってきます。鑑賞者も、この作品から色々なことを想像して楽しむことができます。鑑賞する際、目を細めてみるのもおすすめです。

## 静岡県健康福祉部部長賞



### 茂みから現れた猫

さまざまな素材を使い、猫の体・足・しっぽを表現しました。  
色は黄色・青の順に塗り重ねて影ができるよう工夫しました。

静岡県立西部特別支援学校  
高等部 2年 西野 陽音

【講評】 版として使用されている様々な素材を見つけていくのが、とても楽しいです。日常の中でよく使用されている素材（段ボールや梱包材など）を探して、選択していますね。版として使用すると、いつもとは異なった素材の魅力を感じることができます。これからも、色々な素材を見つけて、表現に挑戦し新しい発見をしてほしいです。画面の色の重なりも、とても美しいです。

## 静岡県社会福祉協議会会長賞



### 夏の終わりに

画用紙にガーゼを載せ、ジェッツを縫ってキャンバスづくりから始めました。種はスポンジで、花弁は手にアクリル絵の具とモデリングペー  
ーストを混ぜ合わせた絵の具をつけ、コーヒーフィルターを使いなが  
ら表現しました。色を相談しながら決めました。

静岡県立御殿場特別支援学校  
高等部 3年 佐野 綾菜

【講評】夏の終わりのひまわりをみて、「美しいな、描いてみたいな」と心が動いた気持ち  
が作品から伝わってきました。じっくりと時間をかけて、描くことと向き合い、  
色々な方法で表現を追求できていますね。大切なのは、描く過程で自分の心動かさ  
れ、面白いと感じ、自らの表現を探求することです。そうしたプロセスが、わたしの世  
界をより広げ豊かにしてくれます。

写真の部

審査員長 中村明弘  
(全日本写真連盟静岡県本部顧問)

■総評

今回は県内10校から25作品が応募されました。大好きな友達や先生を撮った写真や自分の作った造形作品を撮った写真などがたくさんありました。「いつまでも大切にしたいな」という気持ちが撮らせるのでしょうか。応募されたどの写真にも、子どもたちのそんな気持ちが込められていました。

私たちは日々いろいろなモノと出会い、ドキドキしたり、うれしくなったりします。そういうものを記録してくれるのが写真です。これからも、たくさんの「出会い」を大切に写真にのこして行ってください。

指導される先生方のご努力もよく伝わってきます。ありがとうございます。一つ提案があります。校内で子どもたちの「写真展」を開きませんか。先生方の撮った写真も一緒に並べて…。写真を「楽しい創造活動」の場に大いに役立ててほしいと願っています。

## 静岡新聞社・静岡放送賞



### スマイル！

カメラマンになろうという授業で大好きな先生をとりました。画面をタッチすることでシャッターを切れるように設定し、ニコニコの笑顔で写真を撮ることができました。

静岡県立中央特別支援学校  
小学部 5年 近藤 陽菜

【講評】大好きな先生を撮った写真です。陽菜さんの「先生を撮りたいな！」という気持ちがあっすぐに表現されています。この先生も陽菜さんが大好きなのですね。二人の気持ちがあつなまって、とてもあたたかな作品になりました。陽菜さんが先生の素敵な笑顔を引き出してくれました。

## 静岡県肢体不自由児者父母の会連合会会長賞



### 陽だまり

温かい春の日差しを見つけて、先生と一緒に外を見上げている先生を撮りました。車いすにipadを固定し、教師が車いすを動かし向きやアングルを生徒が決めました。

静岡県立東部特別支援学校  
高等部 2年 神崎 拓哉

【講評】大きなガラス窓から、春の温かな日差しがいっぱいに入り込んだ廊下で、友達と先生が外を見えています。二人は何を見つけたのでしょうか、楽しそうですね。窓の外も光がいっぱい。先生が「ほらっ！」と何かを指さした一瞬を「パチリッ！」と、うまくとらえた作品です。

## 静岡県医師会会長賞



### 葉っぱの穴からみつけた！

秋探しをしているときに、虫に食べられた葉っぱを見つけました。穴の開いた葉っぱを覗くと仲良しの友達を発見。手の甲で棒スイッチを押して撮りました。

静岡県立掛川特別支援学校  
高等部 2年 村田 耀月

【講評】おもしろい作品です。葉っぱの穴をのぞいてみたら仲良しの友だちがいます。その友達がこの写真を見たら、きっとびっくりするでしょうね。だって、「葉っぱの世界」に入り込んだみたいですからね。「穴あきの葉っぱ」が、こんなに楽しい写真になることを見つけた輝月さんの目と心もすてきです。





静岡県肢体不自由児協会